

2018年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にす、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

◎長期的な視野を持ち、先を見通した上で指導計画を立てる。

- ・ 指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応出来るように作成する。特に、自由遊びをマンネリ化させず、又、子どもの自発性にのみ任せるばかりでなく、一人ひとりの教師が、遊びを具体的に提供し、教師の指導のもとに遊びを展開する時を持つ。
- ・ 指導計画を適切に文章化し、レベルの高い保育日誌を充実させる。
- ・ 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるように教師の願いや意図を持ち、また季節や社会の変化に応じた環境構成をしていく。
- ・ 新年度より認定こども園になることから、低年齢化するため、年齢に合った指導計画を充実させる。又、異年齢の関わりを充実させる指導計画を立てる。

◎より高度な専門知識や技能を身につけるために、自己研鑽を行っていく。そのために、各自、自分の研鑽すべき目標を具体的に掲げ、研鑽報告を園内研修で行う。

◎仕事の手順をよく考え、能率よくかつ責任を持って確実に行う。

◎周囲の恵まれた環境を生かした保育が出来るよう、常に研究し、行動する。

◎クラスや子どもの様子、自分の考え、保育のポイントなどをクラスだよりなどで工夫し、わかりやすく知らせる。

◎地域開放や子育て支援を幼稚園の中に位置づけて行い、周知させるようにする。

◎指導計画の作成や記録の取り方、考察の在り方に関する研修・研究を行う。

◎園の周囲の恵まれた環境を生かした保育ができるよう常にアンテナを磨き、教師間で情報交換をし、研究をする。

◎幼児を取り巻く状況や社会の出来事について理解を深め、園としてそれに対してどのような教育を行うか考えたり学習したりする。

◎危機管理マニュアルに基づき、危機管理の必要性と対応について研修する。

3、 評価項目の達成及び取組み状況

| 評価分類 | 取組み状況 |
|-------------------|--|
| 保育の計画性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成し、自分の保育と計画の評価、反省は毎日行い、次の保育と計画に生かせるように行っている。週に1度園長に日誌を提出しアドバイスをもらい、保育に生かすことが出来た。指導計画を適切に文章化し、レベルの高い充実した保育日誌を充実させる点では、前年度よりも教師の意識が高まったので、継続していく。 ・ 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしているが、自由遊びの時間の過ごし方がマンネリ化していた。年度途中から朝の自由遊びの時間を登園後プレイルームで過ごすこととし、遊びに広がりが見られたが、教師が十分に遊びを提供出来なかった。 ・ 季節の物を園内に持ち込むなど、子ども達が季節を感じる事が出来るような環境構成が十分出来なかった。 |
| 保育の在り方・幼児への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 園内に危険な箇所がないか、危険な遊びはないか、活動が年齢や能力に適しているかなど、けがや事故には特に気をつけ環境構成を行っている。 ・ 一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけ、言葉にならないサインを受け止めるようにしている。 ・ 幼児のことについて常に教師間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有し、共通認識を持って対応することが出来ていた。他のクラスに入り、保育を行う際には子ども達の状況把握をきちんと行い、保育を行った。 ・ 年齢に応じた見通しは出来ているが、個々の幼児の発達の姿や課題についての見通しを持つ点では評価が低かった。 |
| 教師としての資質や能力・良識・適性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている。 ・ 職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。 ・ 教職員全体で1つのチームであることを意識している。 ・ 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長、主任に連絡、相談をし教師会で確認し合っている。 ・ 仕事に対し、責任を持って行っているが、手順や能率よく行うための工夫が必要であった。 ・ より高度な専門知識や技能を身につけるために具体的な目標を決めたが、十分な達成は出来なかった。 |
| 保護者への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ クラス便りの内容を充実させ、個々の子どもの様子は電話や連絡帳などを使ってわかりやすく伝えている。 ・ 保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視しないで、園長や主任に報告や相談をしている。 ・ 園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている。 ・ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、教職員全体で検討し、共通理解の上で対処している。 |
| 地域の自然や社会とのかわり | <ul style="list-style-type: none"> ・ 花の日訪問の他に、釧路町の食育講座を受けるなど地域の人々との交流を行うことが出来た。クリスマス訪問は日程が合わず行うことが出来なかった。 ・ 子育て支援を幼稚園の中で位置づけ、チラシやホームページ・地域広報誌などで周知させるようにしている。 |
| 研修と研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の作成や記録の取り方、考察の在り方に関する研修、研究を行っている。 ・ 園内研修は時間を取って行い、園外への研修へも前年度よりは参加することが出来た。そのため、実際の保育で役に立つことがあった。 ・ 園の周囲の恵まれた環境を生かした保育ができるよう常にアンテナを磨き、研究をするよう、意識しているが満足いく評価までには至らなかった。 ・ ドアロックを設置したことによる安心感からか防犯についての研修を十分に行うことが出来なかった。 ・ 研修課で特別支援児の対応を学んだり、教師会で話し合うことはあったが、もう少し踏み込んだ学びが必要である。 |

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年度は、幼稚園型認定こども園に移行した初年度であり、例年と異なる事柄も多々あったが、その度に情報を共有し、打ち合わせを密に行ってきた。
- ・又、低年齢児への対応を安全で適正に行うため、研修会に参加し、学び合い、連携を深めて保育を行うことができた。
- ・教職員個人能力評価も始まり、学期ごとに自分の資質を見つめなおすことでそのことを意識して、前向きに頑張ろうという気持ちが持てた。
- ・各自が取り組むべき課題や重点的に取り組む目標を自己点検・自己評価し、またそのことを園全体で話しあったことで共通の理解を深め、今後の課題を見出すことが出来た。

5、 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|-------------------|--|
| 保育の計画性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期的な視野を持ち、先を見通した上で指導計画を立てる。 ・ 指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応出来るように作成する。特に、自由遊びをマンネリ化させず、又、子どもの自発性にのみ任せるばかりでなく、一人ひとりの教師が、遊びを具体的に提供し、教師の指導のもとに遊びを展開する時を持つ。新しいことにもチャレンジしていく。 ・ 指導計画を適切に文章化し、更にレベルの高い保育日誌を充実させる。 ・ 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるように教師の願いや意図を持ち、また季節や社会の変化に応じた環境構成をし、幼児の感覚や興味、関心に刺激を与える。 ・ 認定こども園になり、年齢幅が広がることから描く年齢に合った指導計画を充実させる。又、異年齢の関わりを充実させ、育ち合う環境を設定する。 |
| 教師としての資質や能力・良識・適性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ より高度な専門知識や技能を身につけるために、前年度より継続して自己研鑽を行っていく。そのために、各自、自分の研鑽すべき目標を具体的に掲げ、研鑽報告を園内研修で行う。 ・ 園全体のことに目を配り、どのように動けばよいか、又、仕事の手順も考えて、一人ひとりが主体的に動く。 ・ 周囲の恵まれた環境を生かした保育ができるよう常にアンテナを磨き、教師間で情報交換をし、積極的に取り組む。 |
| 保護者への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスや子どもの様子、自分の考え、保育のポイントなどをクラスだよりなどでわかりやすく、又、楽しみに読んでもらえるよう工夫して知らせる。 |
| 地域の自然や社会とのかかわり | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域開放や子育て支援を幼稚園の中に位置づけて行い、周知させるようにする。 |
| 研修と研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の作成や記録の取り方、考察の在り方に関する研修・研究を行う。 ・ 園内研修以外に、園外の研修にも積極的に参加し、専門知識や技能を身に付ける。 ・ 幼児を取り巻く状況や社会の出来事について理解を深め、園としてそれに対してどのような教育を行うか考え、話し合い、学習し、タイムリーに保育に取り入れる。 ・ 危機管理マニュアルに基づき、危機管理の必要性と対応について研修する。 ・ 特別支援児に対応する保育のあり方について学び合う時間を設ける。 |

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今度の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2018年度評価

1. 自己評価の結果が適切であり、前年度の改善個所に対しての成果が見られた。
2. 能力評価や自己研鑽をすることにより、教師の質の向上が見られ、今後も継続してほしい。
3. 教職員が増えたが、連携や情報の交換を密にし、保育の質を落とさずレベルアップしている様子が伺えた。
4. 安全面、衛生面は前年度より意識し、低年齢を受け入れる環境が整えられていた。教師の研修の成果が、発揮されていた。
5. 保護者への対応の中で、園だより、クラスだより等保護者に分かりやすく、又、楽しみに読んでもらえるように今後も工夫が必要である。
6. 環境構成については、季節を取り入れた装飾や子ども達が参加出来るものなど、工夫が見られた。